

# 底魚情報 (第 1 報)

令和元年 10 月 9 日

宮城県水産技術総合センター環境資源チーム

Tel : 0225-24-0139 Fax : 0225-97-3444

## 令和元年度カレイ類底曳網調査結果

県漁業調査指導船「みやしお」にて、9月20日、10月3日に30分の着底トロールによるカレイ類底曳網調査を実施しました。この調査はカレイ類の分布量を把握するため、2014年から毎年秋(9月、10月)に仙台湾内の6つの定点(水深30m、40m、60mラインの各2点)で実施しているもので、今年度は水深100mの地点を追加して計7点を調査しました(右図)。

主な漁獲物は水深30mの地点ではジンドウイカ、シログチ、たい類、水深40mの地点ではチダイ、ショウサイフグ、水深60mの地点ではさば類、マガレイでした(表2)。ヒラメ、マコガレイ、マガレイのCPUE(1時間あたりの漁獲量(kg/時間))の推移を図5、図6に示した。2019年のヒラメとマコガレイのCPUEはこれまで最低であった2018年をさらに下回っていました(図1,2)。マガレイでは沖側のSt.5で多く漁獲され、CPUEが低い2017年、2018年を上回っていました(図3)。調査では今まであまり見られなかった暖水性の魚も入網しており(次ページ)、黒潮系暖水が仙台湾に流入していると考えられます。

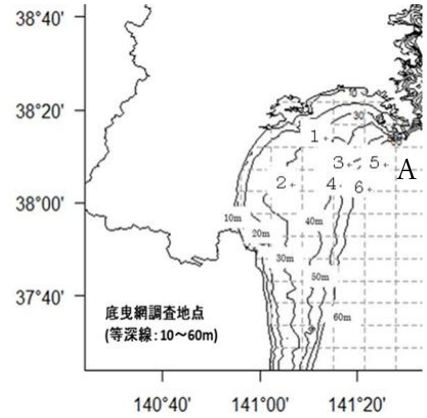


表1. 操業実績

地点番号	St.1	St.2	St.3	St.4	St.5	St.6	St.A
年月日	9月20日				10月3日		
時間	12:54	11:26	8:22	9:47	10:05	11:33	13:00
位置	北緯	38° 11'	38° 07'	38° 10'	38° 05'	38° 10'	38° 05'
	東経	141° 13'	141° 7'	141° 16'	141° 15'	141° 24'	141° 18'
水深(m)	38.0	33.3	41.0	43.3	70.2	50.3	101.5
船速(kt)	2.1~3.1	1.7~3.1	2.1~3.0	2.6~3.0	0.9~3.1	2.0~3.1	2.5~3.0
表面水温(°C)	23.4	24.0	22.7	23.0	22.6	22.7	22.5
底水温(°C)	19.5	20.6	19.0	20.0	17.5	17.7	15.3
海底溶存酸素(mg/L)	6.57	6.73	6.50	6.63	6.43	6.03	6.13

表2. 主な漁獲物

地点番号	異体類			その他
	マコガレイ	マガレイ	ヒラメ	
St.1	2尾 0.4kg	0	2尾 0.6kg	シログチ16.9kg、ジンドウイカ10.2kg、タチウオ1.8kg、マダイ2.9kg、ワラサ、ホウボウ、アカシタビラメ、ウルメイワシ、カナガシラ等
St.2	0	0	0	マダイ5.3kg、タチウオ3.3kg、ジンドウイカ2.1kg、チダイ2.0kg、ホウボウ、マトウダイ等
St.3	0	0	0	チダイ85.3kg、マアジ5.3kg、ホウボウ5.2kg、アイナメ3.5kg、カナガシラ0.7kg等
St.4	0	0	0	チダイ27.8kg、ショウサイフグ23.3kg、カナガシラ6.1kg、ホウボウ4.9kg、マフグ2.3kg等
St.5	0	40尾 4kg	0	さば類3.2kg、シヤコ、サルエビ、マフグ、ムシガレイ、カタクチイワシ等
St.6	0	1尾 0.01kg	0	カナガシラ0.9kg、ホウボウ、タマカンゾウビラメ、コウイカ、ジンドウイカ、チダイ、メイトガレイ、ムシガレイ等
St.A	0	1尾 0.01kg	0	タチウオ39.4kg、いわし類(カタクチイワシ主体)33.6kg、キアンコウ4.8kg、ヤリイカ2.9kg、マアジ2.0kg、カナガシラ1.2kg等

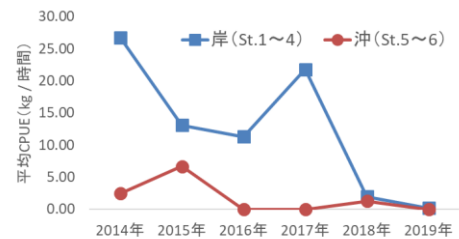


図1. ヒラメのCPUE推移

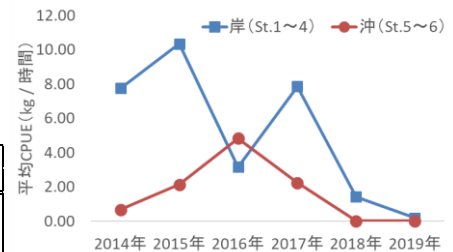


図2. マコガレイのCPUE推移

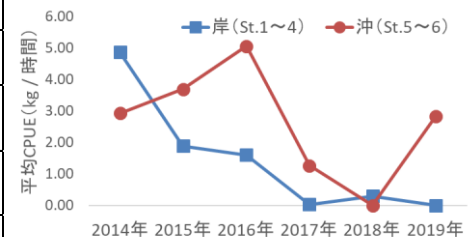


図3. マガレイのCPUE推移

## 今回の調査で入網した暖水系の魚種について

### ・ StA で入網したヨリトフグ (図4)

分布は相模湾以南。全世界の熱帯域に分布。沖合を遊泳し、表層性で行動範囲は広い。(山溪カラー名鑑 日本の海水魚より)

### ・ St3、St6 で入網したチカメキントキ (図5)

南日本、全世界の熱帯・亜熱帯に広く分布。東シナ海では、五島西沖から大陸棚縁辺に沿って、台湾北部に至る水深 90~330m の範囲に生息する。(山溪カラー名鑑 日本の海水魚より)



図4. ヨリトフグ



図5. チカメキントキ

### ・ 産卵間近のタチウオ

今回入網したタチウオの生殖腺を観察するとほとんどの個体が産卵間近で (図6)、本県沿岸でも産卵していると考えられます。県内のタチウオ水揚量は近年増加しており (図7)、魚体が大きく鮮度が良いものは高値で売れることから、今後の増え方によっては重要魚種になる可能性があります。



図6. St1 で入網した全長 128 cm、体重 1.6kg タチウオとその卵

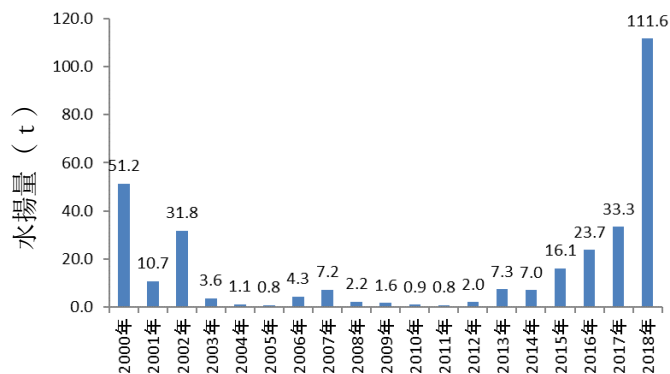


図7. 県内のタチウオ水揚量